

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2021年6月10日

No.21

会社：昨冬を水準としてどこまで上回れるか検討したい
組合：計画未達を理由とした手当抑制は認めない！！

～2021年度 夏季手当第3回交渉報告～

中央本部は本日10時00分より第3回交渉を行ない、会社は現時点における考え方を以下のとおり明らかにしました。

- ①昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により需要が低迷したことに加え、九州地区の7月豪雨災害や、年末年始に北日本・日本海側を中心とした大雪の影響を受けて鉄道収入は大幅に減少した。事業開発部門においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてテナント収入の減少がみられた。2021年3月期決算においては、単体で+0億円、連結で+14億円の黒字を確保したが、一昨年と比べて70億円超の減収となり、引き続き先行き不透明感が残っている。
- ②これまで指定公共機関としての使命を果たし、鉄道貨物輸送の確保に努めているところであり、現状の収入状況は前年度比では10%程度上回っているが、対計画比では10%程度下回っており非常に厳しい状況である。
- ③春闘交渉時に会社の考え方として「業績は賞与で還元する」と回答したことにに関して、これまでの社員の労苦に応えていかなければならないことは認識している。
- ④2021年度事業計画の策定にあたり、昨年10月時点では収入が回復傾向であったため、一昨年並みまで回復すると予測していたが、1月に入ってまた昨年4月並みにまで落ち込んでしまった。新型コロナウイルス感染防止対策が長期化している中において、職場の多大なる努力には大変感謝している。
- ⑤組合の主張を真摯に受け止め社内議論した結果、現時点は、昨冬の水準をどこまで上回れるか検討していきたいと考えている。

中央本部は会社の考え方に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①職場では与えられた業務を一生懸命に担っている。事業計画策定時に収入回復の見通しを誤って収入計画を策定したのは会社であり、計画未達は組合員の責任ではない。会社の考え方では組合員のモチベーションは喪失し、士気が下がる恐れがある。
- ②前回の交渉において組合の要求の根拠を示したか経営陣に伝わっているのか。昨年度、赤字決算だと言われていたものを黒字にしたのは組合員が頑張ってきた結果である。会社の考え方は高い計画を立てておいて計画未達だから我慢しろとしか聞かえない。
- ③JR貨物グループ会社を含めた社員の新型コロナウイルス感染が増加しており、指定公共機関としての使命を果たせるのか危惧する。感染予防対策として毎日スーツ交換を求めているが、交換する作業が確保されておらず、現状は組合員自らが交換を行なっている。そうした組合員の労苦を経営陣は見るべきだ。本日、会社から示された考え方では到底納得できない。再考を求めらる。

組合の指摘に対して会社は「会社の考えは現時点のものであり、指摘の内容については回答指定日までに社内で議論していく」と回答しました。本日以降、山場の闘いに突入します。新型コロナウイルス感染対策を行ないながら安全・安定輸送に努め、昨年度黒字決算を達成させた組合員の努力に会社は応えなければなりません。中央本部は回答指定日にむけて最先頭で奮闘していくことを決意し、第3回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は6月17日（木）です。

以上